

NAAが積極振興に転換、海外参考に

■新成田構想の「エアポートシティ」

「新しい成田空港」構想では、地域共生・まちづくりについて「エアポートシティ」実現に向けて議論、検討を進めていく（本紙15日付既報）。ポイントは成田国際空港会社（NAA）が地域振興策に積極的に係りながら、産業誘致や空港従業員の良好な住環境整備などに取り組む点にある。2029年3月末の滑走路増設・延長、各種施設再編など「さらなる機能強化」を「第2の開港」と位置付けて検討を進めており、すでに新貨物地区でもNAAが積極的にオペレーション体制に関わり機械化・自動化を進める方針を打ち出している。開港の経緯もあり、従来は「マイナスからゼロ」への受動的な取り組みが中心だったが、「ゼロからプラス」の考えに転換して、海外事例も参考に参考に取り組む。今後、開発主体の在り方も含めて議論されていく。

14日開催の検討会でNAAは、海外事例として、地域との連携が強い、ヘルシンキ・ヴァンター国際空港、ロンドン・ルートン空港、アムステルダム・スキポール空港、レイキャビク・ケプラビーク空港およびソウル・仁川空港の取り組みを参考にしていると説明した（表参照）。

スキポール空港周辺の開発を主に手掛けるSADC（スキポール・エリア・デベロップメント・カンパニー）は、スキポール空港会社、ノードホルランド州、アムステルダム市およびハーレマネール市が出資して設立。企業誘致では、官民連携のアムステルダム・エアポート・エリア協会（AAA）が国際的なマーケティングやプロモーション活動を手掛ける。主に物流・航空宇

宙産業の国際企業誘致を目指している。一方、オランダ政府経済・気候政策省企業誘致局のパートナー機関、アムステルダム・イン・ビジネスは、フィンテック、農業、エネルギー、化学関連など幅広い産業の企業誘致を行う。SADCがこれらと連携して取り組む体制と紹介した。仁川空港については、空港が立地する永宗島、対岸の青羅地区、松島地区が仁川経済自由地域（IFEZ）に設定されている。TFEZのうち空港敷地内は仁川国際空港公社（IIAC）、敷地外（永宗島の一部、青羅地区、松島地区）は仁川市に属する機関の仁川経済自由区域庁が開発している。検討会によると、今年1月の仁川国際空港公社法改正で、IIACが空港周辺地域への直接投資が可能

になったもよう、としている。

成田周辺の物流関係ではこれまで、千葉県企業庁が芝山町で空港南部工業団地を開発してフォワーダーの保税蔵置場が多く整備されてきたが、NAAは係っていない。一方、新貨物地区構想関連では、空港周辺との一体的な運用を掲げており、総合保税地域制度の運用も視野に入れるなど、NAAが積極的に係っていく方針。物流面では「エアポートシティ」実現の取り組みが先行して進みつつあるが、地域を巻き込んだ、多分野での開発や企業誘致などの推進体制作りは初となるだけに、国の関わり方も含めて議論の進め方が注視されていきそうだ。

海外の「エアポートシティ」の事例

国・都市・空港	フィンランド・ヘルシンキ・ヴァンター空港	英国・ロンドン・ルートン空港	オランダ・アムステルダム・スキポール空港	アイスランド・レイキャビク・ケプラビーク空港	韓国・ソウル・仁川国際空港
周辺地域の開発体制	自治体と空港会社の連携	自治体、空港会社、地域団体による連携	地域開発会社SADC（空港会社と自治体で設立）	地域開発会社（国・自治体・空港会社で設立）	空港公社、仁川経済自由区域庁（仁川市所属機関）
空港会社・株主構成	政府100%	市100%（空港運営権はスペインのAENAが保有）	政府69.77%、アムステルダム市20.03%、ADP8%、ロッテルダム市2.2%	政府100%	政府100%
特徴	首都圏唯一の国際空港かつ最大空港	首都圏の第4空港	首都圏唯一の国際空港かつ最大空港	首都圏唯一の国際空港かつ最大空港	韓国最大の空港
空港周辺の開発エリア	空港近接地型	空港近接地型	広域型	広域型	広域型
位置付けと地域づくりの戦略	フィンランドの首都空港としての位置付け。アジアから一番近い欧州としてアジアへも多くの路線を持ち、欧州への玄関を標榜。高い福祉と環境先進都市として、グリーン&カーボンニュートラルを掲げ、自然と住まいとが共存するエアポートシティを目標とする	ロンドン都市圏の第4空港として、ロンドンと地域経済の発展に貢献。ケンブリッジとオックスフォードの両学研都市の中間に位置する立地を生かした戦略を掲げるとともに、地域住民や自然環境に配慮した周辺開発を行う	アムステルダムの国際ビジネス拠点としての機能を支える首都空港。世界、欧州、オランダ国内への豊富なネットワークとオランダの基幹産業を生かした地域開発を空港周辺で広域的に展開	アイスランドの玄関口。国家や都市としては小規模。欧州と北米の中間に位置する立地を生かして国外からヒト・モノ・知識・投資を呼び込むドライバーとしてエアポートシティを位置付ける。広域的なゾーニングにより、産業や住まい、研究など多様な開発を行う	韓国最大の空港であり、国家の国際化戦略にとっての重要拠点としての位置付け。仁川空港が位置する永宗島は空港建設時に4つの島を埋め立ててつなげた半人口島。空港を生かしたリゾート開発や物流拠点などが設けられ、島には11万人が居住する

（「新しい成田空港」構想検討会資料を基に本紙作成）